

その2：ロータリーの魅力

何かをしよう みんなの人のためになる 何かをしよう
よく考えたら自分の体に合った 何かがある筈だ
弱い人には弱いなりに 老いた人には老いた人なりに 何かがある筈だ
生かされて生きているご恩返しに 小さいことでもいい
自分にできるものをさがして 何かをしよう

坂村真民先生の詩です。

ロータリーは、皆様に全てを求めているのではありません。自分に出来ることをすればよいのです。

弱い人には弱いなりに 老いた人には老いた人なりに 何かがある筈だ
生かされて生きているご恩返しに 小さいことでもいい
自分にできるものをさがして 何かをしよう 　　です。

<ロータリーの魅力>

さて、ロータリーの魅力とは、何でしょう？ 皆様は、どのように捉えていますか？

1) ロータリーは素晴らしい

私は、1978年4月にロータリーに入会させて頂き、この4月で34年になります。この間、多くの会合に出席させて頂き、そして多くの素晴らしいロータリアンの皆様と出会うことが出来ました。今日の出会いはその一つでございます。

そして、多くのプロジェクトに参加することにより、「感動」を頂きました。私は、「ロータリーは素晴らしい」と思っています。

当に「**He profits most who attends most.**」(最も多く出席する者最も多く報われる)であります。

私が経験した「感動」を三つ紹介します。

- ① 1979年、まだ和歌山の山奥の子供達は、海水浴に行くことは稀でした。その数年前より有田RCは毎年山奥の子供達を海に招待し、海水浴を共に楽しんでいました。このプロジェクトが始まった頃は、「海を見たことがない」という山奥の子供たちも居ました。

私はこのプロジェクトに参加し、子供達の喜ぶ顔を見て、自分も楽しく、「医療以外でも、このように人のお役に立つことが出来るのだ！」と感動しました。ロータリーに入ってよかったと思いました。

- ② 次に、私のガバナー年度である2000年1月にインドのポリオー斉投与に参加しました。

ポリオー斉投与について、長年NIDsに参加されておられます当地区でお話するのは憚りますが、当地区

のご指導を受け、日本で2番目、2640地区では初めて、中島PDGのお世話で、中島ご夫妻、亀岡直前ガバナーをはじめ、クラブ会長8名を含めロータリアン・ご家族・RAC会員総勢73名が自弁で、ムンバイのポリオ斉投与に参加しました。

ムンバイでは、地元のガバナーやロータリアンの支援を頂き、7-8人のグループに分かれて、夫々異なった接種ブースに向かいました。

私のグループは、世界一のスラム街といわれる「Danahvi」の貧民街に行きました。その住まいは3~4畳ぐらいの掘立小屋で、居間兼食堂兼寝室兼洗濯場で地べたに、家族が数人生活していました。勿論下水道や溝は無く、汚水は細い路地に垂れ流し。悪臭は勿論、衛生状況は非常に悪い状態でした。

子供達は物珍しさに近寄って来ましたが、街の中の子供達のように、物乞いはしませんでした。子供達は貧しい身なりでありました。しかし、子供達の目は輝いていました。

或る参加者は、「感銘を受けたのは、幼子を抱き、小さな子供の手を引いて立ち並ぶ母親の真剣な姿でした。幼子がつぶらな瞳で、少し不安げに、懸命に口をあける姿を見て、『この子にポリオになられてなるものか』という思いが心からわき上がりました。主役は、ポリオと戦う幼い子供達とその親御さん。微力ながらその支援に、今後とも参画する決意を全員で固めました。」と報告されました。

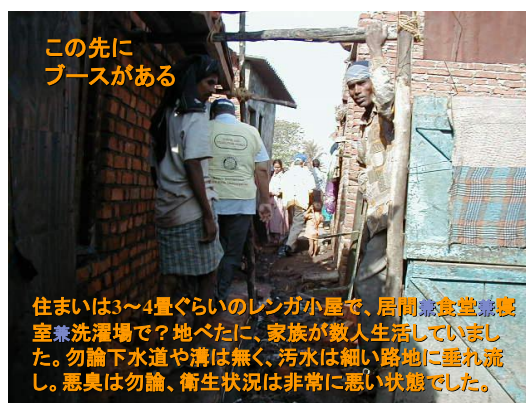
インドでは0才~5才の子供、1億4千万人に、12月と1月の2回ポリオワクチンを接種します。我々73名は感動の体験をしました。

と同時に、この地区のクラブと「病院の集中治療室に人工呼吸器を設置する」WCSプロジェクトを実施しました。

ご存知と思いますが、1月13日付けのワシントンポスト紙は、「インドでは昨年の1月13日以来ポリオ発症がなく、ついにポリオ非流行国となった。残るはパキスタン・アフガニスタン・ナイジェリアである。このインドでの成功は、政府・WHO・UNICEF・RI（その会員は10億ドル以上の義捐金を送った）のお蔭である。」と報道しました。

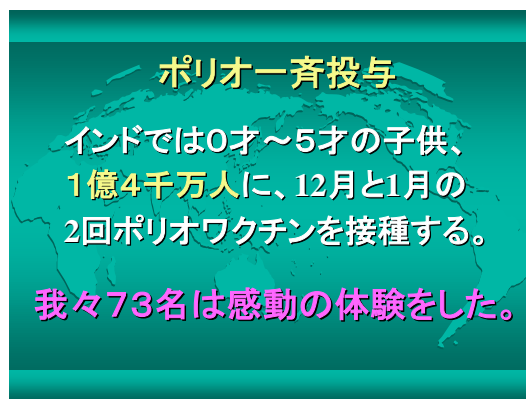


空港での出迎え



この先にブースがある

住まいは3~4畳ぐらいのレンガ小屋で、居間兼食堂兼寝室兼洗濯場で地べたに、家族が数人生活していました。勿論下水道や溝は無く、汚水は細い路地に垂れ流し。悪臭は勿論、衛生状況は非常に悪い状態でした。



ポリオ斉投与

インドでは0才~5才の子供、1億4千万人に、12月と1月の2回ポリオワクチンを接種する。

我々73名は感動の体験をした。



Rotary Club of Bombay Cuffe Parade との WCS プロジェクト

集中治療室に人工呼吸器を設置する

Facebook (2012年1月13日)

Mrs. Michele Berg (Rotary International) より
India hits polio milestone, 1 year since last case of the crippling disease
NEW DELHI — The top U.S. health official administered polio vaccination drops to children in New Delhi on Friday as **India marked one year since its last case of the crippling disease.**
www.washingtonpost.com
By Associated Press, Published: January 13

India hits polio milestone, 1 year since last case of the crippling disease
The milestone is a **major victory** in the global effort to eradicate polio. **If no previously undisclosed cases are uncovered in the coming weeks, India will be removed the list of endemic countries, leaving only Pakistan, Afghanistan and Nigeria.**

India hits polio milestone, 1 year since last case of the crippling disease
India's success in fighting polio has been credited to a partnership between the government, the World Health Organization, UNICEF and Rotary International, whose members have contributed more than \$1 billion to the global eradication effort.

又、14日には全国ロータリアンインターネット協議会 (JRIC) の ML に、関場 PDG から投稿がありました。

ここに出ている「JRIC」について、ご存知ですか？

<第 2660 地区 (大阪北部第 5 組) IM>

1998 年 3 月 7 日第 2660 地区 (大阪北部第 5 組) IM は、「もし INET で空間を越えた例会が出来たら」というテーマで仮想デモンストレーションと、既に HP を立ち上げている全国の RC から代表して 4 クラブの推進責任者によるパネルディスカッションが行われました。

- ①HP の目的は？
- ②HP 開設の動機は？
- ③HP 開設の苦労話を教えて
- ④HP 開設によってクラブが変わったことは？
- ⑤現在抱えている問題点は？
- ⑥今後の夢

パネリストは、蓼科 RC : 荻原良之氏、
松阪山桜 RC : 西村伸久氏、
熊本西陵 RC : 花井真晃氏、
東京紀尾井町 RC : 垣見裕司氏、
地区外からの参加者は、大津東 RC : 志村修氏、
有田 RC : 成川守彦

その一方で既に HP を開設しているクラブでさえ、色々な悩みがあることも分かり、「全国 RC の INET 担当者の情報交換の場」を作ってはどうか、更には INET を通じて地域を越えてロータリアン同士が友になり、「ロータリー活動における INET というこの流れを育てたい」という声に参加者の皆様から沸き上がりました。そして、5 月 21 日、東京で有志 9 人による発起人会を開催いたしました。東京での発起人会には、IM 発信元の大阪北梅田 RC 奥田太加幸氏と上記 6 名の他、前橋 RC の藤澤茂氏、東京北 RC の横山義文氏が出席されました。

2012年1月14日

JRIC: 関場PDGの報告

インド;
昨年1月13日以来ポリオ発症がなく、ついにポリオ非流行国となった。

今後3年間の発症が無ければ根絶国

HPを開設しているクラブでさえ、色々な悩みがある

「全国RCのINET担当者の情報交換の場」
「ロータリー活動におけるINETというこの流れを育てたい」

5月21日東京で有志9人による発起人会を開催
1998年9月18日 設立総会

シンポジウム

「HPの目的、開設動機、苦労話、問題点、夢」

パネリスト 蓼科RC 荻原良之
松阪山桜RC 西村伸久
熊本西陵RC 花井真晃
東京紀尾井町RC 垣見祐司

地区外から参加者 大津東RC 志村修
有田RC 成川守彦

＜全国ロータリアン INET 協議会の誕生＞

1998年9月18日、東京は東條会館にて、北は北海道から南は九州まで全国約40名のロータリアンが参加し手作り総会が開催されました。

第1回総会では下記のことが決まりました。

(名称) 会の名前は、「全国ロータリアンインターネット協議会」とする。

(目的) 本会は、INET を通じて会員相互の交流、連携、情報交換を持つことにより、ロータリー活動の OA 化、迅速化、情報化、効率化の推進発展に寄与することを目的とする。

(活動) 本会は、第1条の目的を達成するために次の活動を行う。

- 1) ロータリー活動におけるインターネットの可能性検
- 2) インターネットの普及促進並びに OA 化等の支援
- 3) 海外ロータリー情報の提供及び相互交換
- 4) 防災対応時の検討
- 5) その他

(理事役員)

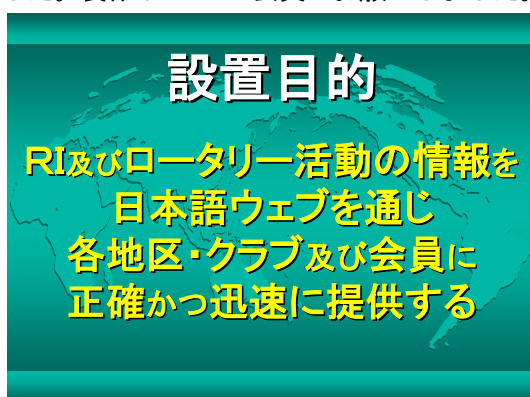
理事、役員リスト		(発起人)
役職	所属クラブ名	氏名
会長	東京紀尾井町RC	垣見 裕司
副会長	新庄RC 豊科RC	三條 典男 荻原 良之
幹事	東京北RC	横山 義文
副幹事	大多喜RC 矢張りしおRC	浅野 正明 尾形 新一郎
会計	東京世田谷中央RC	関 博子
委員長	普及促進 海外情報交換 防災	浅野 正明 三條 典男 藤澤 茂
理事	有田RC 大阪北梅田RC 大津東RC	成川 守彦 奥田 太加幸 志村 修

＜日本ガバナー会に INET 委員会設立、R JW委員会の誕生＞

1999年当時RIの情報や世界各地のRC、地区の奉仕活動等が「ロータリーワールド」「ロータリーの友」を通じて日本語として、我々日本の会員に届くのは、2～3ヶ月後であり、我々が入手できる最も早い情報は、RIのホームページでした。しかし残念ながら英文でありました。そこでガバナー会に「INET委員会」を設置し、日本語による正しいロータリー情報を、早く会員の皆様に提供することが出来ないかと思いで、1999年秋、ガバナー会議長小林様、同会事務局の篠永様、ロータリーの友編集長の浅見様、立川RC小島様と相談の上、12月のガバナー会に「日本ガバナー会にインターネット委員会（仮称）」の設立を議題として提出し承認を得ました。



2000年2月17日、東京で第1回委員会を開催。会の名称は、「ロータリー・ジャパン・ウェブ委員会」とすることで了解され、役員選出は、委員長に田中 PDG が、副委員長に黒田 PDG と成川 DG がそれぞれ選任されました。製作は JRIC の会員にお願いしました。



委員 河本 親秀
2780地区 96-97 PDG(大磯)

委員 小林禮次郎(G会議長)
2750地区 99-00 DG (東京日本橋)

委員 庄司 穂
2810地区 99-00 DG (大河原)

委員 指田 勢郎(次期G会議長)
2580地区 00-01 DGE(東京田無けやき)

委員 安満良明
2730地区 00-01 DGE(加治木)

製作部会 垣見 裕司 (東京紀尾井町)

横山 義文 (東京北)

小島 常成 (立川)

J R I C
(全国ロータリアンインターネット協議会)

その後、RJW は経費の問題などで、ロータリーの友に移管しました。

<Cyber Rotary Club と E-Club>

2001 年規定審議会でサイバークラブの設立が支持され、2002 年 1 月アメリカコロラド州デンバーに世界最初のサイバークラブが設立されました。



発想

いろいろな理由で、或いは物理的に出席できない、また立場上毎週開かれるロータリー・クラブの例会に定期的に出席できない人々を救済

旅行や仕事上の制約、或いは既存のロータリー・クラブから25マイルも離れたところに住んでいた、個人的な移動に境界のあるために、従来の出席要件を満たすことのできない人たちのために、会員身分を開放するもの

m.narukawa

そして、2004 年規定審議会でクラブ定款に採択され、2010 年規定審議会で「地区に二つまでのE-クラブの設立」が認められました。

日本最初のE-クラブは、当 2650 地区に「日本ロータリーEクラブ 2650」が誕生しました。



日本ロータリーEクラブ2650/RID2650
ROTARY E-CLUB OF 2650
会長 杉田 博

Face to face/hand to hand/heart to heart/などEクラブでは皆無のような議論ですが、我々は地区別、地域別情報集会も開催し、全員での会合(インターネットを使わない)も年4回計画しております。地区別、地域別情報集会は最低半期に1度としております。

話を元に戻しまして、私が経験した「感動」の3番目は、

- ③ 1999-2000 年度の 2640 地区 WCS プロジェクトとして、ネパール；バクタプル市に「岩村記念病院建設」を、第 2680 地区との合同 WCS プロジェクトで実施したことです。

岩村昇博士は、ネパール（18年間）、バングラデッシュ・インドネシア及びフィリピン諸島（12年間）に対する医療並びに人道的奉仕、健康管理プログラム推進に大きな役割を果たした功績で、1981年サンパウロRI国際大会で第一回ロータリー国際理解賞を受賞されました。

ネパールでの結核予防活動中、15人の孤児を自分の養子にして、育てられました。

その養子の一人プルニマ女史が、博士の功績を記念してバクタプル市に岩村記念病院を建設したいということで、岩村博士とご縁のある両地区が協力したのです。

このプロジェクトに関して、私は3回ネパールを訪問しました。1度目は1999年で、土地を決めるため。2度目は2000年で、進捗状況を視察のため。3度目は2003年で、病院開設後の運営状況把握のためです。この時、日本からCTを寄付しましたが、関税の問題で空港に1年間留まっていました。そこで、国王や保健科学技術大臣を訪問して協力を依頼しました。

<ロイヤル・ファミリーに拝謁>

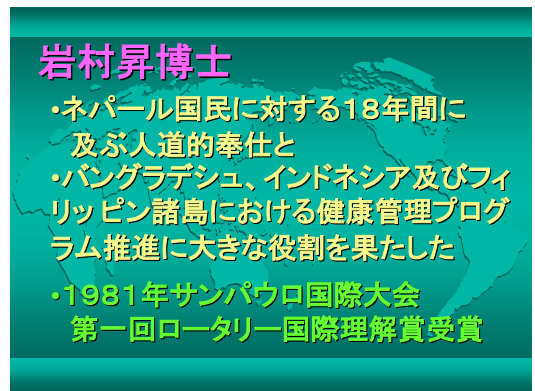
3度目の2003年3月25日、プルニマ女史の案内で、女史旧知の国王義弟に拝謁する機会を得ました。岩村記念病院への協力をお願いし、日本とネパール両国間の国際親善の理解と医療協力を話し合いました。（2008年に王制廃止）

<保健科学技術大臣と面会>

2003年3月26日朝、保健科学技術大臣 Prof. Upendra P. Devkota FRCS 氏と面談しました。彼は51才の脳外科医で、大臣の傍ら診察・手術をしているとのこと。昨日も開頭手術をし、救急患者があれば病院に呼ばれると話されていました。

「岩村記念病院」への協力をお願いした際、彼は1974年岩村博士にBCGの予防接種をしてもらったという話が出ました。そこでプルニマ女史はその場で岩村博士に電話をし、その電話で大臣は岩村博士に、「1974年、私の小学校に来て、BCGをしてくれたことを覚えていますか？」と話されました。

<労働者農民党党首との会談>



このプロジェクトで私の一番の思い出は、2000年1月24日～28日まで2度目のネパールを訪問し、「岩村記念病院建築」の進捗状況を視察した時のことです。

病院建築の進捗状況を見に行きましたが、地元対策が不十分のため、工事がストップしていました。その為、私は、地元のバクタプル市を牛耳っている労働者農民党党首やバクタプル市長、近くのパタンRC、パタン西RCの両会長と会い、病院建築への協力を強く要請しました。

市長と党首との懇談の中で、党首はこう言いました。「約30年前、日本のドクターがここへ来て健診してくれた。腕に注射をした。私は会いに行って『お茶を飲もう』と言ったが、ドクターは『今は仕事をしているから、終わったらお茶をよばれる』と言った。私は彼を尊敬している」と。

私は「その人こそが、この岩村記念病院の岩村博士で、その子供さん達が、病院を建築するのですよ」と叫びました。

このような、映画に出てくるような話の後、懇談はスムーズに行き、建設が着工されました。

そして、不思議なご縁で、2009～2011度の2年間に亘り、私は米山奨学生のカウンセラーをしましたが、その学生さんは、ネパール、バクタプル市出身で、労働者農民党党首とは家族ぐるみのお付き合いをしているということです。まさに、「ご縁」を感じました。

その後、岩村記念病院については、2680地区が継続的に病院の運営に支援を続けましたが、残念ながら、運営上のトラブルがあり経営者が変わりました。

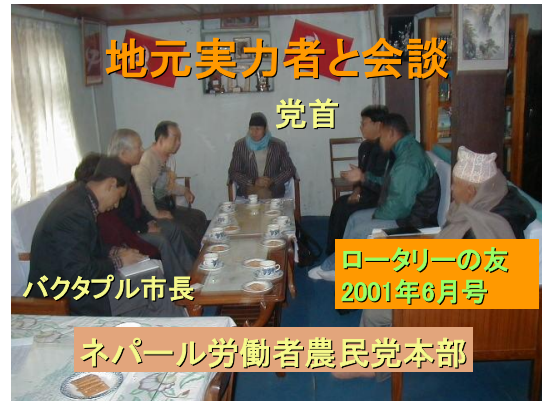
私は、ロータリーに入った限りは、皆様、その素晴らしさを是非解かってほしいと思います。そのためには、じっとしていても、解かりません。「努力」が必要です。ロータリーを理解する努力をして頂きたい。私は、最近の新しい会員の皆様は、その努力が足りないと思います。

いま ここ じぶん その合計が じぶんの一生 相田みつを
であります。自分が努力することが大切であると思います。

まず、多くのロータリープロジェクトに参加することです。

クラブのいろんなロータリーの奉仕プロジェクトに参加し体験することにより、そこに何か得るものが、感動するものがあります。そして、自分自身が変わります。自分自身が成長します。又地域の多くの人も知り合いになります。

地区委員になると、より広い、より多くのプロジェクトに参加する機会が増え、更に多くの感動を得、多くの人々と知り合いになり、視野も広がります。



ガバナーになると、更により多くの、日本全国は及ばず、世界のプロジェクトに参加する機会が増え、より多くの人と知り合いになり、多くの素晴らしい感動を得ることが出来ます。世界は広いです。

皆様は、是非、地区委員を経験し、ガバナーにもなっていただきたい。

私の場合は、ガバナーを経験後、お蔭さまで 2005/2006 年の RI 研修リーダーをさせて頂きましたので、更に多くの日本の PDG、DG の皆様、世界のロータリーリーダーの方と知り合う機会を頂きました。

又、そのご縁で、今日のように各地区に訪問させて頂く機会も増えました。

<親睦>

ところで、皆様のクラブの親睦はいかがでしょうか？皆様、「親睦」の意味はよくお解かりでしょうか？

ロータリーは、最初、親睦を目的として誕生しましたが、長い間の論争を経て、大きく変貌しました。現在のロータリーの定款や細則を見ても、親睦という文字を見つけだすことは難しく、僅かに「親睦活動委員会」の名称に、その名が見られるだけです。もはや、ロータリー・ライフの中で、親睦は必要なくなったのでしょうか。

ロータリーの二本の柱として、ロータリアンのほとんどは**親睦と奉仕**をあげます。又、新しいロータリー年度が始まると、新会長は挨拶の中で、親睦と奉仕という言葉をよく使います。親睦と奉仕が、ロータリー・ライフを支える二本の大きい柱であることは、間違いありません。

ここで、「親睦」という言葉を、今一度、原点に戻って、考えてみたいと思います。

1923-24 年度 RI 会長 **ガイ・ガンディカー**は、[A Talking Knowledge of Rotary] (ロータリー通解) (小堀憲助訳) で、ロータリーの基本原則を体系的に解説されています。

<ロータリーと関東大震災>

このガイ・ガンディカー氏は、1923 年 9 月 1 日関東大震災が起こった時の RI 会長でございまして、国際ロータリーから日本に、見舞電報と共に 25,000 \$ の見舞金が贈られ、また世界各国の 503 クラブから 89,800 \$ の義援金や物品が贈られました。

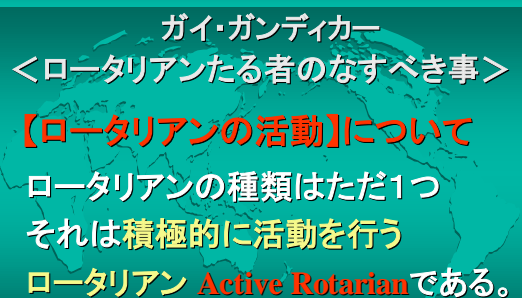
東京クラブは、この義援金で、東京と横浜の小学校 188 校への備品寄贈、東京孤児院の新築、殉職警察官遺族の援助、ある会員管理の消失産科医療病院への寄付を行いました。

この奉仕の喜びを経験した 1920 年創立間もない東京クラブの会員たちは、改めて、ロータリーの力を認識し、その発展を念願し、クラブ運営も一新され、それまでは月に 1 回だった例会も、毎週水曜日に開かれることになったそうです。

ガイ・ガンディカー会長は、**先ず<ロータリアンたる者のなすべき事>**について、次のように書いています。

【ロータリアンの活動】

ロータリアンの種類はただ一つ、それは**積極的に活動を行う**ロータリアン Active Rotarian である。



ガイ・ガンディカー
<ロータリアンたる者のなすべき事>
【ロータリアンの活動】について
ロータリアンの種類はただ一つ
それは積極的に活動を行う
ロータリアン Active Rotarian である。

まず、個人的活動について：ロータリアンのなすべき**第一の活動**は、個人的活動である。各会員は、それぞれ自己の企業又は専門職業において、常にロータリーの目的たる言行一致に留意しつつ、ロータリーの説く高度な職業倫理と多角的な奉仕を、実践しなければならない。ロータリーこそ、まさに向上運動なのであり、従ってその成否は一にかかって、ロータリアン達はその倫理訓に記されたロータリーの諸原則を、どこまで実践するか、かかっているのである。

ロータリアンとは、**安心して取引のできる人のことである**、ということ、世に知らしめなければならない。全会員はロータリーのバッジを常に着用し、これを**信用と奉仕との象徴**としなければならない。

＜ロータリアンたる者のなすべき事＞
ロータリアンとは、安心して取引のできる人のことである、ということを世に知らしめなければならない。
全会員は**ロータリーのバッジ**を常に着用し、これを**信用と奉仕との象徴**としなければならない。

次に、クラブ活動について：ロータリアンのなすべき**第二の活動**は、クラブ内部の活動である。クラブがロータリー運動において、どのような価値をもつかは、ロータリアン達がクラブの会合に、どのくらい積極的に参加するか、ということにかかっている。各会員は、クラブの会合で提起されるすべての問題について、積極的に討論に加わり、かつ、自己の企業又は専門職業について、話をする機会が与えられなければならない。

次に、同業者の団体における活動について：ロータリアンのなすべき**第三の活動**は、自己の職業分野の他の同業者に対して、**高度な職業倫理の基準と奉仕の理念の徹底**を行なうことである。どの企業、どの専門職業にも、その地元、その県、その国の同業者団体がある。ロータリアンは、このような団体の会合に出席し、かつ、自分の職業分野に対して**ロータリーが派遣した大使たる行動**をとらなければならない。・・・「ロータリー大使」といわれる所以であります。

＜ロータリアンたる者のなすべき事＞
次に同業者の団体における活動について：
第3の活動は、自己の職業分野の他の同業者に対して、**高度な職業倫理の基準と奉仕の理念の徹底**を行なうことである。どの企業、どの専門職業にも、その地元、その県、その国の同業者団体がある。ロータリアンは、このような**団体の会合**に出席し、かつ、自分の職業分野に対して**ロータリーが派遣した大使たる行動**をとらなければならない。
「ロータリー大使」といわれる所以

最後に、公共的かつ慈善的奉仕について：ロータリーは、その会員を、より良き市民、各自の商業団体等におけるより良きメンバーたらしめるように訓練するのであるから、ロータリアンは、その地域社会の団体、公共の団体、商業上の団体や、慈善団体において**積極的な行動**をとらなければならない。このように述べています。

さて、ガイ・ガンディカー会長は、「**親睦**」については、

しばしば、ロータリーで親睦を図ることが、ロータリー運動の全てであるように誤解される。また、ゆらぎない親睦こそロータリーが存続する絶対的条件だと考えているクラブもある。
しかし、これらの二つの立場からの判断には、明らかに批判の余地がある。**親睦はロータリー運動そのものではなく、ロータリーという植物が根をはり、成長するためにどうしても必要な、最上の土壌なのである。**

この、ロータリーでいう「**親睦**」という言葉ですが、私は日本のロータリアンの多くが、誤解していると

思います。

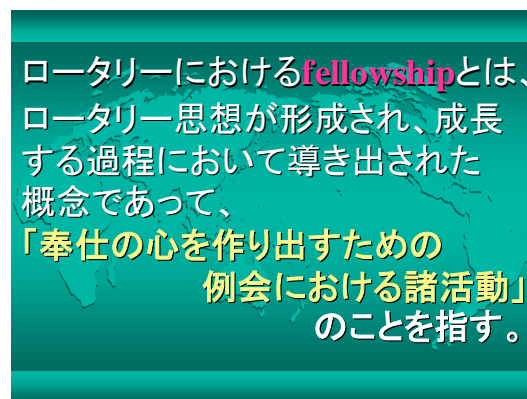
日本のロータリアンがよく使う意味の「親睦」を図るのであれば、誰にでも幾らでも機会があります。気の合った仲間とゴルフや旅行に行くのもよいし、カラオケやバーでも親睦を図ることができます。以前のように一人一業種というような料簡の狭いことを言わなくても、同業者同士でも充分親睦は図れます。ロータリアンになって、定例の会合に出席しなければ親睦が図れないということはありません。

これは、親睦と親睦活動を混同しているのです。親睦会・懇親会やゴルフ会に参加することは、親睦活動に参加することであって、ロータリーのいう親睦とは違った次元のものです。親睦はロータリー運動を成立させる必要条件ですが、親睦活動はクラブ奉仕に属する充分条件の分野にあり、親睦会を欠席したからといって会員資格を云々されるものではありません。

では、ロータリーが考える親睦とは、どんな意味を持っているのでしょうか。

「親睦」の元の英語は、**fellowship** です。この **fellowship** を **親睦** と訳したことに問題があります。[友愛] とか [友情] と訳す方が理解し易いかもしれません。

ロータリーにおける **fellowship** とは、ロータリー思想が形成され、成長する過程において導き出された概念であって、「奉仕の心を作り出すための例会における諸活動」のことを指すのであります。



例会の場で、職業上の発想の交換を通じて、分かち合いの精神による事業の永続性を学び、友情を深め、自己改善を計り、その結果として、奉仕の心が育まれてきます。この例会における一連の活動の前提となるものが、**fellowship** **親睦** であります。

例会で学んだことを、**奉仕活動** として実践する場が、家庭・職場・地域社会・国際社会などの Community であります。

親睦を深める最適の場所は、毎週一回の定例の例会であります。

例会において、いかに友情を深めるかを考え、実行することが、親睦活動委員会の最大の任務なのです。

RIBI の推奨クラブ細則には、Fellowship Committee 親睦委員会とは別に Entertainment Committee 余興委員会が設けられており、**親睦と親睦活動の違い**が定義づけられています。

一人一業種で選ばれた会員が、毎週開かれる例会に集って、お互いが師となり徒となって、奉仕の心を学び自己研鑽を重ねる。それをロータリー運動の一つの柱と考え、それを達成するために試みる、ロータリー同士の、友情に裏打ちされたあらゆる行動のことを総称して **「親睦」** と呼んでいるのです。

友情溢れる例会を通じて、ロータリアンがお互いに切磋琢磨し自己改善に務めることで、ロータリーの説く親睦が、一層深まり、奉仕の心が高まっていくのです。

米山梅吉氏は、「**ロータリーの例会は人生の道場**」と語っています。

お互いが切磋琢磨して自己研鑽に励む貴重な修練の場であります。

米山梅吉氏
「**ロータリーの例会は
人生の道場**」

**お互いが切磋琢磨して
自己研鑽に励む貴重な
修練の場**

2650 地区の皆さんはそうなさっていると思いますが、例会運営に当る者は、事業に従事すべき貴重な時間を割いて例会に参加する会員に、それに値するメリットを与える義務があります。即ち、限られた時間の中で、如何に有益な情報を効果的に提供するかを真剣に考えて、努力しなければなりません。

クラブにおきましては、**クラブ指導者の役割**は、会員の皆様が**感動する**クラブ運営を、会員の皆様の**向上心を満足**させるクラブ運営をすることです。会員の皆様に「**ロータリーに入ってよかった**」という感動を持っていただく機会をより多く持つて頂くことです。

そして、**クラブ委員会の役割**は、**ロータリアンを育てる最も適切な年間教材をつくる**ことであり、その決定には全会員が参加することです。

委員会活動は、皆さん方のクラブでは活発でございますか。委員会は再三開催されていますか。委員会はよく委員長さんが1人でやっているというクラブがあるのですね。そうじゃなくて、委員会を開いて事業計画、予算を立てて、年度途中で執行状況などを検証して行くのが本来でございます。

例会において、会長の時間・議事・各種の報告・卓話、そのひとつひとつがロータリー運動の質を高め、参加者の心に深い感銘を与える内容であってこそ、初めて、例会出席の意義が満たされるのです。

そして、例会で学んだ奉仕の理念を、自分の職場に持帰ると共に、自分が属する業界に広め、地域社会全体の職業モラルを高めることが、ロータリーの会員である「ロータリー大使」

の役目だと考えれば、**あなたが例会を休むことは、あなたはもちろんのこと、会員全員に、さらに、地域社会のすべてに、大きな損失を与えることになるのです。**

会長の時間、議事、各種の報告、卓話、そのひとつひとつがロータリー運動の質を高め、参加者の心に深い感銘を与える内容であってこそ、初めて、例会出席の意義が満たされるのです。

業界の会合には代理をたてることが許されますが、ロータリーの例会には、代理出席は許されません。自分自身が出席しなければならない理由は、ここにあるのです。

このことから考えると、例会出席は、ホームクラブの例会に出席することが要求されているということも、理解できます。ロータリアンが目指さなくてはならないのは、ホームクラブ 100%出席であります。

このようなロータリーの本質を正しく理解しないまま、例会の本当の意義を理解せず、例会を昼食会と錯覚し、ロータリーの二義的な現象をロータリー・ライフと思い込まないよう、気をつけて頂きたいものです。

余談ですが、“ I know where Rotary’s going; it’s going to lunch ”・・・聞いたことがありますね。これは、**バーナード・ショウの皮肉**として有名ですが、“ **knife and fork member** ”は、外国のロータリーでも、昔から問題になっていたようです。

因みに、**ガイ・ガンディカー**は、ロータリーの精神を真に理解している者を「ロータリアン」と呼び、そうでない者を「ロータリークラブの会員」と区別して呼んでいます。ロータリアンは例会を通じて、自己改善されなければなりません。

ところで、ロータリー運動の実体を簡単に表す時、

[Enter to learn, Go forth to serve. 入って学び、出でて奉仕せよ。] という言葉があります。

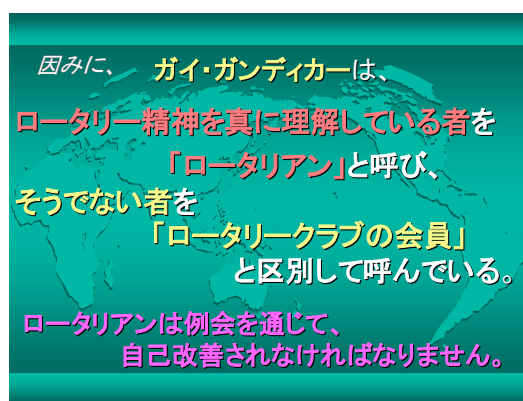
世界中の各地区のガバナーエレクトが、毎年研修に行く**国際協議会**の会場の入り口に掲示されています。

先ほど述べましたように、**例会**の場で、職業上の発想の交換を通じて、分かち合いの精神による事業の永続性を学び、友情を深め、自己改善を計り、その結果として奉仕の心が育まれてきます。**これが「入って学び」**であります。

そして、例会で学んだことを**〔奉仕活動〕**として実践する場が、家庭、職場、地域社会、国際社会などの Community なのです。・・・**これが「出でて奉仕せよ。」**です。

fellowship とは、親睦と訳されておりますが、ロータリー思想が形成され、成長する過程において導き出された概念であって、「**奉仕の心を作り出すための例会における諸活動**」のことを指すのです。

ロータリーの効用は、原則的に一人一業種で選ばれた良質の職業人が、毎週一回定例の会合に集い、例会を通じて奉仕の心を育み (enter to learn)、高められた心を持って職場や地域社会・国際社会で奉仕活動の実践をする (go forth to serve)ことにあります。



さて、ロータリーの魅力とは、なんですか？

ポール・ハリスは、ロータリーについて、次のように述べております。

「ロータリーとは何か・・・という答えは難しい。しかし、ロータリーが我々に何をしてくれたかということを見ると、これは割合簡単である。

ある人は もし、ロータリーのお陰で、私達が人生とか人間に対して、暗い意地悪いイメージを抱かず、温かいイメージを持つことができるようになったら、そして、もしもロータリーが、私達に、全てに対して広い心を持ち、他人の長所を認めてやるような心を与えてくれたならば、また、もしもロータリーのお陰で、人生の喜びと美しさを自分でも取り入れ、他人にも施すというタイプの人達と快いおつきあいができるようになったとしたら、これで我々がロータリーに期待していることの全てを、ロータリーは我々に与えてくれたことになる」

あるパストガバナーがこう申されました。

ロータリーの魅力とは、知らず知らずのうちに他人に対する思いやりの心、助け合いの心を持ち、相手の喜びや悲しみのわかる人間に改良されていくことである。

私は、

ロータリーの楽しみとは、

1つは友達の輪が広がること、

2つは人様のお役に立つ喜び、

3つは自分の人間性の成長、

私はこの3つだと思います。

心をこめた奉仕は、たとえ小さくとも人様に幸せを与えるものであります。

「ロータリアン一人一人の奉仕で、どれだけ多くの人々が助けられ、生きる力を与えられたか」・・・思い起こしてください。

「人の心に、愛の泉がこんこんと湧く限り、人様の幸せを願って行う奉仕こそ、人様に素晴らしい幸せと喜びを差し上げる」ものでございます。

「人の心に、愛の泉がこんこんと湧く限り、人様の幸せを願って行う奉仕こそ、人様に素晴らしい幸せと喜びを差し上げます」

